

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大分短期大学
設置者名	学校法人 平松学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	園芸科	夜・通信			51	51	7	
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						

(備考) シラバスに示している実務経験のある教員等による授業科目の単位数のうち、同一の授業科目を複数のクラスで実施し、いずれかのクラスでは実務経験を有する教員等でない者のみが担当する科目の単位数を除いてある。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.oitatandai.ac.jp/publicinfo/shirabasuH31.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大分短期大学
設置者名	学校法人 平松学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.hiramatsu.ac.jp/report>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会計関係の会社経営	2019. 5. 25 ～ 2020. 5. 31	学校法人の財務及び 経営力強化への 助言
非常勤	放送関係会社勤務等	2016. 6. 1 ～ 2020. 5. 31	教育・研究内容の充 実に向けての助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大分短期大学
設置者名	学校法人 平松学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>平成31年度のシラバスには、科目コード、科目名、実務経験のある教員による授業、地域志向、単位、担当者、関連資格、短期大学士力番号と項目、授業の概要、授業の形式、学習成果(到達目標)と対応する短期大学士力番号、履修上の注意点、授評価の方法と基準、教科書、参考書、授業計画及び授業内容、アクティブ・ラーニング、授業内容・授業以外の学習(予習・復習などの具体的内容及びそれに必要な時間)を明示している。</p> <p>シラバスの内容は、毎年見直しをしている。毎年1月に授業を担当する教員に対して「シラバス作成の依頼書」を「シラバスの作成要領」とともに送付し、シラバス作成を依頼している。3月に第三者によるシラバスの記載内容チェックを行い、その結果は教授会で報告・確認され、印刷・製本されている。シラバスの公表はホームページ上で行っている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.oitatandai.ac.jp/publicinfo/shirabasuH31.pdf
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各科目の成績評価については、シラバスに「評価の方法と基準」が示されている。各科目の学修成果の査定については、学則及び試験規則に基づいて厳格に行われている。成績評価(単位認定)は「秀」、「優」、「良」、「可」、「不可」の5段階である。</p> <p>～試験規則 第3条(抜粋)～</p> <p>各学科の成績評価は100点法をもって表し、秀・優・良・可・不可の5段階に分けて学生に通知する。</p> <p>95 ～ 100点・・・秀 80 ～ 94点・・・優 65 ～ 79点・・・良 60 ～ 64点・・・可 59点以下及び履修放棄を不可とし、秀・優・良・可を合格とする。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、成績をはかる基準として、GPA制度を導入している。成績表には、秀・優・良・可・不可の成績評価が記載されるとともに、GPAが添記される。各科目1単位当たりのGP(グレード・ポイント)は、秀(4ポイント)、優(3ポイント)、良(2ポイント)、可(1ポイント)、不可(不合格、及び履修放棄:0ポイント)である。</p> <p>*GPAの算出方法</p> <p>GPAは、各学期に履修したそれぞれの授業科目の単位数にGPを乗じ、その合計を各学期の履修単位数の合計で除している。通年科目については、成績確定後にGPAに算入している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.oitatandai.ac.jp/publicinfo/shikenkisoku.pdf 及び</p> <p>https://www.oitatandai.ac.jp/publicinfo/risyuannai.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学の教育目的と教育目標を実現するために、大分短期大学では短期大学士力を定め、短期大学士力を踏まえた、以下の学修成果の達成を学位授与の方針としています。定められた単位取得要件を満たし、また短期大学士力の修得を認められた人には、教授会の審議を経て、学長が卒業を認定し学位記(短期大学士(園芸学))が授与されます。</p> <p>大分短期大学の短期大学士力：(1)社会科学と自然科学に関する基礎的な知識を修得している(一般教養知識) (2)社会科学と自然科学に関する基礎的な技能を修得している(一般教養技能) (3)専門分野に関する基礎的な知識を修得している(基礎的専門知識) (4)専門分野に関する基礎的な技能を修得している(基礎的専門技能) (5)専門分野に関する応用的な知識を修得している(応用的専門知識) (6)専門分野に関する応用的な技能を修得している(応用的専門技能) (7)倫理観や社会的責任など生活や仕事に必要な基礎知識を修得している(社会的基礎知識) (8)多様な他者を理解し協調・協働して課題に取り組むことができる(多様性・協働性) (9)自ら課題を立て、課題解決に向けて計画し取り組むことができる(主体性・思考力・判断力) (10)他者にわかりやすく且つ的確に物事を伝えることができる(表現力)</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.oitatandai.ac.jp/publicinfo/jyoho-kohyoR1.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大分短期大学
設置者名	学校法人 平松学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.hiramatsu.ac.jp/report
収支計算書又は損益計算書	http://www.hiramatsu.ac.jp/report
財産目録	http://www.hiramatsu.ac.jp/report
事業報告書	http://www.hiramatsu.ac.jp/report
監事による監査報告(書)	http://www.hiramatsu.ac.jp/report

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <https://www.oitatandai.ac.jp/publicinfo/jikotenken28.pdf>

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <https://www.oitatandai.ac.jp/publicinfo/accredited2016.pdf>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 園芸科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.oitatandai.ac.jp/publicinfo/jyoho-kohyoR1.pdf ）
（概要）大分短期大学の建学の精神は、「意志あるところ道あり」である。教育目的は、「高等教育普通教育の基礎の上にさらに広い一般教育と専門的学識を修め、深い知識と豊かな人間性を養い、もって国家及び地域社会の発展に貢献しうる社会人の育成を目的とする」と学則第 1 条に定めている。教育目標は、「農業・園芸の領域に集積された様々な知識や技術を学修し関連の資格、認定等を取得して、豊かな発想力と実践力を身につけ、地域産業の健全な振興・発展をはかり、健康・長寿社会の実現のために活躍する人材を育成する」ことである。 園芸科は、園芸学及び農学の教育研究を通じて農林業・環境・地域社会に広く貢献することを目的とする。本科は、生物生産・フラワーデザイン・造園・園芸療法に関する専門領域を広く学修し、国内外において活躍できる人材を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.oitatandai.ac.jp/publicinfo/jyoho-kohyoR1.pdf ）
（概要）本学の教育目的と教育目標を実現するために、大分短期大学では短期大学士力を定め、短期大学士力を踏まえた、以下の学修成果の達成を学位授与の方針としています。定められた単位取得要件を満たし、また短期大学士力の修得を認められた人には、教授会の審議を経て、学長が卒業を認定し学位記(短期大学士(園芸学))が授与されます。 大分短期大学の短期大学士力：(1)社会科学と自然科学に関する基礎的な知識を修得している(一般教養知識) (2)社会科学と自然科学に関する基礎的な技能を修得している(一般教養技能) (3)専門分野に関する基礎的な知識を修得している(基礎的専門知識) (4)専門分野に関する基礎的な技能を修得している(基礎的専門技能) (5)専門分野に関する応用的な知識を修得している(応用的専門知識) (6)専門分野に関する応用的な技能を修得している(応用的専門技能) (7)倫理観や社会的責任など生活や仕事に必要な基礎知識を修得している(社会的基礎知識) (8)多様な他者を理解し協調・協働して課題に取り組むことができる(多様性・協働性) (9)自ら課題を立て、課題解決に向けて計画し取り組むことができる(主体性・思考力・判断力) (10)他者にわかりやすく且つ的確に物事を伝えることができる(表現力)
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.oitatandai.ac.jp/publicinfo/jyoho-kohyoR1.pdf ）
（概要）2年間（4学期）の教育課程で、農業・園芸分野の基礎的な知識を広く学ぶとともに、専門的な知識と技術を深く学び、発想力と実践力を磨くために、園芸科の中にコースを、さらに、コースの中に専攻を設け、教育科目を体系的に配置・開講しています。教育科目には一般教養科目（選択）、専門科目（必修）、専門演習・実習（選択）科目があります。また、ゼミナール制によりきめ細かな履修指導や学修支援、各種資格取得支援を行い、主体的に考える力を育成するために学生主体型授業（ディスカッション、グループワーク、発表などのアクティブラーニング）を積極的に取り入れています。教育科目は短期大学士力と関連付けられ、学生に求められる学修成果を明示しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<https://www.oitatandai.ac.jp/publicinfo/jyoho-kohyoR1.pdf>）

（概要）設置しているコースは「園芸コース」、「農学コース」、「編入学コース」の3コースです。「園芸コース」は、花卉・野菜・果樹・作物・畜産・フラワーデザイン、ガーデニング、造園、園芸療法、バイオテクノロジーについて学び、JA や種苗会社などそれぞれに関連する企業等への就職を目指します。「農学コース」は、農学または林学を学び、国や地方公共団体（公務員）への就職を目指します。「編入学コース」は、「園芸コース」か「農学コース」のどちらか一方を選択した上で重複選択し、本学卒業後に専門性をさらに高めるため4年制大学の農学部や理学部等への3年次編入学を目指します。

以上の観点から、本学は次のような人を求めています。

- (1) 大分短期大学の建学の精神、教育目的、教育目標について理解がある人
- (2) 農業・園芸の分野に対して深い関心を持ち、将来、学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人
- (3) それぞれの目標に向かって意欲的に学習に取り組もうとする熱意と実行力がある人
- (4) 高等学校等における学習内容を幅広く修得している人
- (5) 自分の考えを的確に伝えるための表現力がある人
- (6) 基本的なコミュニケーション力を身につけている人

本学の入学試験では、個別学力検査や面接、提出された書類等で学習意欲、志望分野の資格や仕事の理解、「知識・技能」、「思考・判断力・表現力」、「主体的を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」などを総合的に判断して選抜します。

具体的には、推薦入試では面接・小論文・提出された書類で、一般入試では面接・個別学力検査・提出された書類で、社会人入試では面接・小論文・提出された書類で、センター試験利用入試では大学入試センター試験・提出された書類で、AO入試では面談・課題レポート・面接・提出された書類で選抜します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.oitatandai.ac.jp/publicinfo/jyoho-kohyoR1.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
園芸科	—	4人	1人	0人	3人	人	8人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
人				15人			15人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.oitatandai.ac.jp/publicinfo/jyoho-kohyoR1.pdf					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
園芸科	40人	40人	100.0%	80人	92人	115.0%	人	人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	40人	40人	100.0%	80人	92人	115.0%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
園芸科	48人 (100%)	24人 (50.0%)	23人 (47.9%)	1人 (2.1%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	48人 (100%)	24人 (50.0%)	23人 (47.9%)	1人 (2.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要) 平成 31 年度のシラバスには、科目コード、科目名、実務経験のある教員による授業、地域志向、単位、担当者、関連資格、短期大学士番号と項目、授業の概要、授業の形式、学習成果（到達目標）と対応する短期大学士番号、履修上の注意点、授評価の方法と基準、教科書、参考書、授業計画及び授業内容、アクティブ・ラーニング、授業内容・授業以外の学習（予習・復習などの具体的内容及びそれに必要な時間）を明示している。</p> <p>シラバスの内容は、毎年見直しをしている。毎年 1 月に授業を担当する教員に対して「シラバス作成の依頼書」を「シラバスの作成要領」とともに渡し、シラバス作成を依頼している。3 月に第三者によるシラバスの記載内容チェックを行い、その結果は教授会に報告・確認され、印刷・製本される。シラバスの公表はホームページ上で行っている。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要) 単位認定は、学則及び履修規則に基づいて担当教員の責任において行われている。評価は、講義科目から演習・実習科目まで多様な科目があるので、それぞれの授業科目の形態によって評価方法が異なっている。講義形式の授業科目の単位認定は、前期・後期末の定期試験における筆記試験で認定がなされているが、筆記試験と併せて受講態度、小テスト、レポート、課題等を加味して評価・認定を行っている。また、成績をはかる基準として GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を導入している。これまでの成績評価と併用することで、量的・質的評価が可能となっている。各学生の GPA は履修指導の他、奨学生選考、就職推薦者選考、編入学入試における学長推薦者選考、学業奨励賞受賞者選考等の参考データとして利用している。</p> <p>本学の卒業認定は、学則及び、履修規則に定める通り、「通算して 2 年以上在学し、園芸コース、農学コース共に 62 単位以上の単位を修得した者」が卒業できる。</p>																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>学科名</th> <th>卒業に必要な単位数</th> <th>GPA 制度の採用 (任意記載事項)</th> <th>履修単位の登録上限 (任意記載事項)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>園芸科</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> </tbody> </table>	学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)		園芸科	62 単位	有・無	単位			単位	有・無	単位			単位	有・無	単位			単位	有・無	単位
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)																					
	園芸科	62 単位	有・無	単位																					
		単位	有・無	単位																					
		単位	有・無	単位																					
		単位	有・無	単位																					
GPA の活用状況（任意記載事項）	公表方法：																								
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：																								

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.oitatandai.ac.jp/publicinfo/jyoho-kohyoR1.pdf>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
	園芸科	570,000円	240,000円	290,000円	その他欄は、施設費及び演習費
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要) 入学者に対しては、学習、学生生活のために入学後、二日間にわたりオリエンテーションを行い、その中でシラバスなど教科目の説明、資格取得についての説明、学生自身の進路などについて、適切な指導を行っている。さらに、学生担当職員による奨学金制度と手続きに関するガイダンスをおこなっている。また、保護者については入学式の当日に、本学園と本学の教育方針や園芸科で学ぶ内容、資格取得の方法や費用、海外研修等について説明を行っている。また、ニュースレターを毎月保護者に送付し、資格取得や特別講義、学内の行事などを伝達し、理解を得ている。

科目選択のためのガイダンスは、入学時のオリエンテーション合宿、また後期開講前のガイダンスで学年ごとに実施している。「学生便覧」や「シラバス」を活用しているので、理解はできているようであるが、ガイダンスの個別相談の際に、講義履修や取得資格について迷っている学生の相談に応じて、将来希望する進路に必要な科目、資格についてのガイダンスを丁寧に行っている。

基礎学力が不足している学生や進度の早い学生については、ゼミナール制度により少人数教育を行っており、その中で英検、漢検等の検定試験受験を含め、個別に指導を行っている。

また、将来、公務員や就職、4年制大学への編入学を希望する学生に対しては、教養科目の学力向上のために、平日(水曜日を除く)の放課後に国語、生物、化学、数学、英語、社会・論述の教養科目を正課科目(科目名:教養演習Ⅰ～Ⅲ)として開講している。夏休み期間中などの長期休暇中には対策講座を開講して専門科目についてもサポートしている。

学生寮は女子寮のみである。寮は民間のアパートを借り上げている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要) 本学の進路支援は、学生部就職担当教員と各ゼミナール教員、事務職員が連携して行っている。毎月1回、ゼミナール教員は所属学生との進路面談を行うほか、必要に応じてその都度個別にも進路指導を行っている。大型連休や夏期休暇、冬期休暇直前等には進路希望調査を行っている。進路希望調査はゼミナール毎に面接とアンケートにより行い、アンケートは就職担当教員に提出してもらっている。アンケートは進路活動状況表にまとめ上げられ、各教職員に配布、全教職員の間で情報交換を行って全学的に学生の進路支援をしている。

平成20年度からは、社会人に必要な基礎的な態度・マナー、知識、能力を総合的に習得することを目的に、新たにキャリアアップセミナーⅠ・Ⅱ(各1単位、必修)を授業に取り入れている。(平成22年度より「進路支援Ⅰ・Ⅱ」に科目名称変更している)

本学3階の一角には就職資料コーナーを設置し、学生に対し就職関係の資料の閲覧ができる環境を提供している。また、個々の学生に対して進路希望調査結果をもとに希望進路に合致した求人を紹介したり、各県で実施される企業合同説明会等の紹介を行ったりしている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要) 学生の健康管理は、毎日の出欠状況を重視し、学生本人と教員間で連絡を密にとりあっている。具体的には、毎時間、講義ごとに出欠をとり、出欠状況を把握している。朝から休む学生については、欠席する理由を学校に連絡し、欠席届を提出するよう指導している。本学が小人数の短大であり、全学生に目が行き届くこと、二十歳前で親元を離れてきている県外からの学生が多いゆえに健康管理を重んじていること、専門職業人・社会人としての事前教育も重んじていることから、学生との連絡を徹底している。これにより、学生個々の健康管理は日々把握できている。また、必修科目である「進路支援Ⅰ（１年生）」、「進路支援Ⅱ（２年生）」の時間を利用して、定期的（月１回）に面談を実施し全学生の健康管理・メンタルケアをカバーしている。

セクシャルハラスメントについては、学内生活で、特に女子学生が悩まないように、女性の教員および事務員を選任して相談窓口として配している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.oitatandai.ac.jp/jyouhoukouhyou.html>